

一
般

0464

二八

櫻井警務長藤吉俊事持中談

一日午後六時追濱航空隊司令ノ報告ニ
 依レハ鎌倉方面ノ震災亦頗ル大ニシテ
 山階宮御邸破損 妃殿下及同御邸ニ
 御避暑中ノ 賀陽宮大妃殿下何レモ
 御重態ナリ 山階宮殿下ハ無事御
 歸邸アラセラル

華頂宮殿下ハ恰モ列車ニテ御歸途
 中ナリシモ無事海軍水雷學校ニ御歸
 校アラセラル

横須賀鎮守府司令長官野間口兼雄

0465

0466

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

官報 號外 大正十二年 九月二日

海軍 換造中葉十三行紙

兼任及辭令

大正十二年九月二日



0467

任内閣總理大臣 海軍大將正三位勳一等功級伯爵山本權兵衛

兼任外務大臣 内閣總理大臣海軍大將正三位勳一等功級伯爵山本權兵衛

任内務大臣 從二位勳一等子爵 後藤新平

任大藏大臣 正五位勳三等 井上準之助

任陸軍大臣 陸軍大將從三位勳一等功級男爵田中義一

任農商務大臣兼司法大臣 正三位勳一等 犬養毅

任逓信大臣兼文部大臣 正四位勳二等 山之内一久

任鐵道大臣

任内閣書記官長
叙高等官一等

従五位勲二等正樺小資英

免兼官

外務大臣兼内閣總理大臣伯爵内田康哉

外務大臣伯爵

内田康哉

内務大臣

水野錬太郎

大藏大臣

市來乙彦

陸軍大臣

山梨半造

(各通)

司法大臣

岡野敬次郎

文部大臣

鎌田榮吉

農商務大臣

荒井賢太郎

逓信大臣子爵

前田利定

鐵道大臣伯爵 大木遠吉

依願免本官

正五位勲一等伯爵内田康哉

特^ニ前官ノ禮遇

ヲ賜フ

内閣書記官長 宮田光雄

依願免本官

正五位勲三等并上海十之助

依願日本銀行總裁被免(以上九日內閣)

副

大正十一年九月一日

海軍大臣學校長

海軍省副官殿

學生生徒故者件

今因康災并東京地方出身ノ學生六名生徒四十名故者
 差許候就下歸校期日迄汽車不通ノ際海軍省
 出頭横須賀ヲ艦船便乘ノ便宜ニ関シ貴官ニ願
 本々キ様申付置候間可然御既屬相煩茂
 右御依頼ス

終

藤田

0470

二

一 三 五 七 九 十一 十三 十五 十七 十九 二十一 二十三 二十五 二十七 二十九 三十一 三十三 三十五 三十七 三十九 四十一 四十三 四十五 四十七 四十九 五十一 五十三 五十五 五十七 五十九 六十一 六十三 六十五 六十七 六十九 七十一 七十三 七十五 七十七 七十九 八十一 八十三 八十五 八十七 八十九 九十一 九十三 九十五 九十七 九十九 一百

方安安...

...

...

...

...

...

...

...

...

0040

0471

~~申~~

目下兩院定家
三編並直上
此ノ多クハ院
多クハ院ハ名
候ハ
出シテ編ニ
北白川宮家
備

別	冊	結完	日

9-30
7-30

又候了、持使言受候

發收第	號決議	月	日	書淨	正校	主任	日施行
		大正	年	月	日	案	
署長	署員	大正五年九月二十日 小月部中書省					
海軍大臣閣下							
兩院官廳御傳字ニ奉付申							
申付申事御市部中書省 兩院定家下令如御下 中書省御事ニ付 中書省御事ニ付							

申付申事御市部中書省

0472

一 并ノリ 果ハ 正カ 力 有キ 多ク 也
 智 越 日 下 細 内 中 林 為 中 進 親 中 為 家
 多 為 中 為 家 為 成 ン 下 下 係 出 サシ 海 陸 下
 此 是 也 下 以 下 下 標 中 第 下 他 下 井 多 下
 中 此 是 也 下 以 下 下 標 中 第 下 他 下 井 多 下

大正二、一〇、一四 縣訓五二號 第八號式

0473

軍務局

海軍少将の村松書及戻

九月二十日 海軍

軍

横濱中華三行界紙

酒匂 本村山中將報告

日ノ前ノ行ノ事ノ事

一、小田原方面

酒匂ヨリモ甚ク概倒家ニ三々以テ大穴大穴ノ
夜ノ時亦モ火端ヲ遠ク置抑御定心ノ之ヲ甚クサト

二、酒匂方面

酒匂旧橋ノ折橋ノ事ヲ通シテ、川上ノ家ニ

属スルモ亦ハ概倒家ノ文化村(折橋ノ内)ノ概倒

二、下ノ町ニ概倒家ノ事ノ一ノ概倒

折橋ノ内ノ概倒家ノ酒匂ノ字林ノ概倒ノ事ノ一

折橋ノ内ノ概倒家ノ概倒ノ事ノ一

折橋ノ内ノ概倒家ノ中山ノ概倒ノ事ノ一

概倒

概倒ノ事ノ一

概倒

(密井納)

0474

2

海軍

模造中葉十三行部紙

九月二日午前七時平瀬の島より出陣、午の午後

七時迄は久留米の島に於て休息す

□ 府河方面 町家ニ三ツ陰ヲ集ル例シテ、火に付ナシ

停車時迄也。□ 府河川の舟着船に於て是迄

崩レシハハ中ノ上リ、道路ハ以テ難曲、新原

アリ

ソナニナシ

二宮方面 例儀亦卷、十家ノ上ニ付ナシ大定ニ

スライニシカク例レタリ、道路ハ以テ難曲

~~本陣~~ 中洲に面して海ノマラニ平瀬の島より出陣す

長瀬の島に於て休息す、舟着船に於て是迄

平瀬の島より出陣す、舟着船に於て是迄

大磯 船下人衆ノ例儀ナシ

(是非納)

0475

二二二二二

右
生
同
信
通

東島、横濱、横須賀方面之地震被害甚大、作
別紙一通之上有候之付書者ヨリ、兵部守府司
令長官ノ通シ、大政市民ニ傳達方ノ然ル
取計相成、又其ノ内保整比也

大正三年九月三十日午後四時

臨時震災救護事務局内務部

海軍大臣副官殿

(已號用紙)

0479

内務省

東京府ノ震災等状況

東京此ノ度ノ震災ハ実ニ稀有ノ大災害ナルト共ニ其ノ程
トシ短時間中ニ此ノ大破壊行ハレタリトモ亦実ニ稀有ノ
事ナリ、震災ニ因テ受テラレシ被害ノ程ハ山ノ下ト下町
トノ間ニ著シク相違アリ山ノ下ハ家庭ノ倒塌モ甚シ
カラス中ニハ損害ナカリシハ水尾ニナキニアラス之ニ反シ下町
一帯ノ被害ハ実ニ莫大ニシテ丸ノ内ノ大建築モ最近
建築ノモノヲ除ク外悉クノ損害ヲ被ク中ニ之内外
ビル等ノ柱カ中座ヨリ切断シ上下ニ倒キツ、アリシ
人ノ間ニ多ク死傷者ヲ出セリ間ニテ各所ヨリ出

(已號用紙)

外務省

0480

火之發現既内務省大臣省部官共在管理局等皆
焼失セリ

次之飯田町ヨリ神田駿河越方面へ焼ケ抜ケ神田一田
全焼セリ日中橋区ハ最之被害甚ク其所カ塔前附近ノ
菓糖あり倒壊セト同時ニ菓糖ヨリたう出シ一面ノ火トナリ
逆ニ市橋橋区ハ是区ニ及ブニ至セリ

下谷淺草方面ハ未だヨリ火トシテ全部焼失シ本所
深川両区亦同様ナリ両区ニ在リテ消火官者長焼死ト相
生署長亦同様ト運命トセリ其ノ如何ニ劇甚ナリシカラ
知レシニ死傷者ハ山手ハ少敷トモ知所深川ニ至リテハ
極大ナル多敷ナリ四推災者ハ宮城前ノ廣場心圓、濱離

(已號用紙)

外務省

0481

(已號用紙)

官等方^面之避難^難し居^るにカ其^の救^はれ約^の面^前之^に及^ぶト推
 察^せら^る也^一四^推心^者ノ救^助ニ就^けテハ廣^く均^に分^け等^に避
 難^せら^る者^ニ對^しテハ握^飲ト飲^み水^トラ配^り居^レトモ本所
 津^川ノ^底人^々ノ^手ヲ^伸カ^{せん}為^す大^目甚^く々^々焦^慮中^ニシ
 戸^ノ海^軍ノ^助力^ニ依^り水^ノ々^々之^ヲ除^け得^る處^ニ至^レ
 リ^{(死者}最^少ニ見^積リ一^萬余^ノ負^傷者^筈ナ^リ

東京市(中)

横濱市ノ災表状

一日午^前十^時五^分ノ大^震動^ト共^ニ先^ツ郵^便局^全壞^シ
 各^所之^倒壞^出火^相繼^キ全^市火^海ト^化シ^避難^民ハ公
 園[、]少^少本^牧六^條山[、]弘^明寺[、]磯^子附^近ニ^恐怖^ト
 鐵^籠ト^シテ[、]救^護ヲ^待テ^居ル^者甚^クナ^リ

外務省

0482

死者少クモ十萬ニ及ブ

(已號用紙)

本府の松房ト草也ト、皆向ハセ却テ仔細山ニ墜テ
陸海軍ノ取獲ノ勅待ワテト名トシテ、唯神奈川ノ
面ハ被害輕微ニシテ子あり面ニ避難シ死傷者之稍
少ナリ也

横濱市ノ災状概観

横濱市ノ災状概観ニ就テ其ノ詳細ヲ知ルテ下ノ得サ
トモ、全市壊滅シ、死傷甚ナキ模様ナリ。

政府ノ善後措置

政府ハ東京市及近接郡部ニ戒厳令ヲ施行シ、
常備隊全ク発布シ又臨時震災救護事務局ヲ設置
シ同時ニ豫備金九百萬十割ノ臨時支出シ、全カク是年ケ

救護上迅速ニシテ下リ。

外務省

0483

大正十二年九月三日

東京鐵道局長

海軍省軍務局長殿

照會

罹災民救助会輸送指目下横濱港ニ被

込中ノ山下汽船会社所屬中津丸ヲ来ル六日

点ニ名古屋港ニ寄港スキ旨迄二日午後六時情小港

祭航ニアルアラスカ丸、ケラスコー丸ガ三日午前中ニ

横濱港ニ到着スル等存在ナリ川博ニ回航セシモ標

通座方名古屋鐵道局長ニ依頼有之申付小特ニ

必要ヲ要スルニ付今ノ状況トシテ通信ノ途ナリ甚ク

困難致スル事及中ニ急務ニ依リ共特別ノ御

鐵道省

十一三「伊波類」

0484

援助 依 右 旨 無 碍 電 信 之 中 華 丸 =

委 細 運 信 方 御 配 慮 相 煩 度 アラヌカニ丸
アラヌカニ丸

尚 奉 五 月 廿 十 日 所 以 沖 入 港 高 麗 丸 等

荷 卸 食 料 取 搭 載 ノ ホ 一 ト ラ 敷 小 船 五 隻 船

載 水 雷 艇 一 隻 同 以 今 占 三 所 以 沖 差 向 上 方

特 別 御 配 慮 仰 度 此 取 何 之 何 分 御 及 事

細 煩 度 及 御 依 頼 申 上 申 上

本件富士船長ニ依頼済

軍務局



20

横濱港上船検査事務

(分三師海軍部中尉口頭述陳述)

一、通商船ト検査官ノ達後ハ不取ルハ内火船ニテハ
不取ル事ハ付違當ノ流弊能ク專用トシテ用意
セラレテ

二、輸送物件ノ陸揚運搬ノ為メ設置シテ
駐機揚掛(判任員ニテモ)カ四近キ一取リテ
ノ所理監督ヲ安スルモノト思ム
右二項ノ違当ノ電報又ニ事柄ニテ取ルル迄

横濱港上船

(富井納)

海軍

11-30/12-9-3



横濱中葉十三行郵紙

0486

海軍

芝罘棧橋海軍司令部組織

司令官
副司令官
司庫

物資管理課

(長官 一名)
(副官 一名)
(書記 一名)

衛生課

棧橋掛

(長官 一名)

庫前支隊

(大學校學生 四名)

便乘務掛

(大學校學生 二名)
(長門下士官兵 五名)

乘船掛

(大學校學生 二名)
(長門海軍士官 二名)
(下士官兵 十名)

應接掛

(大學校學生 二名)
(長門下士官兵 五名)

- 第一棧橋
- 第二
- 第三
- 第四
- 第五
- 第六
- 第七
- 第八
- 第九

長門下士官兵 十八名

0487

情報部

通信掛 (大學生 2名)

新聞記者掛 (司令部 3班 2名)

庶務

海軍省係事務官 6名
書記 2名 學生 2名

総務部長

長官 計官 1名

及所要人員

海軍省
陸軍省
陸軍省

警備部長

大學生 2名
長官 1名 兵 24名

艦隊 (長官 1名)

連絡部

海軍省 (司令部 2班 2名)

陸軍省 (細管 少佐)

備考

本表記載の人員は、出入人員の二直交代の主義による
人員数を示す

五

(印)

おは

本、其浦發定期航船に山階宮加陽宮
より御依頼の便乗者及送附物者之
間其節は可然便宜情取付候旨

大正十三年九月三。

宮内省宗秩寮

潤卷事務官

坂野海軍省副官殿

殿

0489

供覽

軍務局

大正十一年九月三日

海軍省副大臣

膠州特務艦長

此通状所由豫兵ヲ山隈官ヲ務分ヲ裁
并據以中入港既リテノ務分ヲ被任候邊
ニ云

0491

軍務局

經理局

大正十二年九月十日於芝罘

藤吉膠州特務艦長

芝罘海軍第一軍長殿

三日月二時五十分海艇... 約原吉江必二十... 四時... 出港



0492

軍務局

九月三日發送

藤田

不逞鮮人ニ関スル件

在大森水商學校學生佐藤少尉ノ談ニ依リハ
 大森品川川崎方面ニ於テハ一般ニ麴町未坂等ノ
 大災ヲ以テ多ク不逞鮮人ノ放火ニ因ルモノナリト
 所信固ク況ニヤ震災以來池上山ニ立ル龍ノ鮮人
 約ニ十ハ或ハ此派三百ノ中堅ニシテ放火掠奪強姦
 殺ヲ爲サルヤク或ハ終ニ井水ニ毒ヲ投シテ一家ヲ
 廢殺意トスラアリトナシ國粹會員先ツ怒リテ此
 輩ニ對スル拔刀自衛ノ道ヲ諷シ警察亦警監視
 總監ノ意圖ナリトシテ相共ニ此種鮮人又ハ容疑
 者ヲ拘束ニ収束果シ終ニ切捨ヲ許スニ至リト稱

0494

セラル
如斯ニテ此地一帯ノ人心恟々頻リニ軍隊來
リテ又シテ掃蕩セシメトシ切望シツノアリト

大正十二年九月二日午後八時

膠州特務艦長藤吉映

0495

大正十二年九月三日

藤田海軍省副官

軍務局

構内各局部

部中

罹災者ヲ構内ニ收容シタルニ付テハ執務
上便ナラサルコト可有之ニ非常ノ場合各位
ノ了解ヲ要ス

罹災者取扱ニ関シテハ右ノ通り迄ナラシメ

一 宿直將校ニ海軍省副官ノ指示ニ依リ

專ラ罹災者ニ関スル事務ヲ掌ル

二 指定セラルル經理局ノ負及軍需局

ノ負ニ精査ニ付テトク事ナル

0496

三、特ニ情量シテ宿直判任官一名及筆生
二名、宿直將校、命ヲ兼テ勤務時同
内羅災者ニ関スル事務ニ服ス
但退駐後出勤前ニ從前、宿直判
任官本籍、事務ニ服ス

(3)

0497

供覽

人事局

軍務局

別

別

[Handwritten signature]

廣く捕航空隊士長末長

一三九三 在八三〇

加藤唯雄中尉横須賀方面一情況視察第一号

九月二日午前八時横坂式水上操二塔乗出英セン

信帰来セリ依テ陸上操ヲニ回汎遣シ捜索セシメ

シモ「横須賀方面ニ到リ着」上帰路ニ到リテ

一情報ヲ得タシ「ミニシテ今高キ其塔息ヲ得ズ

横須賀海軍

海軍

機造牛樂十三行軍統

0498

人事局

軍務局

別

國田

二日

横須賀震災視察第二行キニ歸途ニ行濟不
明トナリシ霞ヶ浦航空隊ノ航空隊ハ盤城島
沖ニテ其見セラレタリ 塔敷者無事

藤

海軍

横道中葉十三行郵紙

(富井納)

0499

和田守人

北白川宮附

宮内屬 梅田次郎

東京市芝區高輪南町十七番地

心

心

心

難

心

心

0501

0500

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>



前内相職ヲ辞シテ新内相未タ
 命ヲ拜モス前後ノ内閣ヲ通シテ
 國務大臣タル事實ニ閣下アルニ
 斯絶大ニ天変地異ノ對シ困難
 者ヲ救助スルニ繩墨ノ拘泥セズ
 一夫英断ヲ以テ無制限ニ救恤セラ
 レント切望ス
 執拗ヲ去シ若シ一歩ヲ過ラカレバ心

0501

0500

五

當地方ニ於ケル朝鮮人ニ關スル噂ハ概テ虛
報ナリ彼等ト雖皆惡人ニ非ラス安リテ處

待テ見ナ

朝鮮人收容所ニ不テ半練兵場ニ設ケテ
朝鮮人同所ニ行キ安全ニ保護シテヤル

九月三日

横須賀市役所

横須賀鎮守府

衛生司人會部

藤田

興

0503

情報

一九〇九年三月廿五日午後五時

一 西陛下ハ自光ニテ攝政殿下ハ宮城ニテ御異

常アラセラレズ宮城ノ損害ハ輕微

二 大島ノ陥没ニテハ川崎等アル由ナルモ謠言ニ

タマハルナ

三 東海道線ハ沼津ニテ東北線ハ浦和迄

復旧ノ運轉中 浦和ハ東京ノ北六哩位

四 關西方面ノ米多量東京灣ニ輸送ハ大

計畫進ニ居レリ聯合艦隊ノ一部ニ右ノ輸送任

務ニ服シ居リ其内東京灣ニ現ハルベシ

五 糧食ノ食ニ延ハル水ノ節約ハ此際絶対ノ必要ナリ

御至ニ辛抱シマシヨウ

右

天皇陛下震災ニ付被害慘狀ヲ極ムル趣
被聞召賑恤ノ思召ヲ以テ下賜相成候事

大正十二年九月三日

宮内省

0506

明治二十二年九月四日

○益昔ヲ奉^{應急ノ處道ヲ執リ復舊}國此ハ

政府ノ金カヲ擧^事テ旋^力斬^ルモ亦

一擧^國ヲ奮^起協^力ニ符^ツト切^{ナリ}

昔者カハ素業^羅埃者ハ國ヨリ一級^ノ

皆能^ク盛^苗ハ瀝^キヲ奉^體シ官民^戮力^以

予仁慈^{ナル}抑^汰ハ^貴徹^ナ

一^急自^相激^勵ニ^テ適^應ハ^處置^ヲ誤^ラ

又此^ハ災^害ニ^對シ^テ奮^テ奮^テ努力^ス

ヲ致^スル^{コト}ト^テ是^レ本^{大臣}ハ切^望ニ^堪ヘ^サル^所

ナリ

大正二十二年九月四日 內閣總理大臣 田代三喜

0508

地震報告 (第五号)

其後餘震モ次第ニ減少シ既ニ每一時間約五回トナリ
初發當時ノ六分、一ニ下レリ。

昨夜神中海洋氣象台ヨリ接シタル報告ニヨレバ震源ハ

同所ヨリ約九十五里ノ地矣ニアリ。浜松ヨリ三十八里ナリ。

又東京ヨリ八十二里ノ地矣ナルガ故震源ハ伊豆大嶋ト

熱海トノ中間ニアルモノノ如シ。尚東京ニ於テ觀測スル處

ニヨレバ餘震ノ震源ハ東京ヨリ三十二里乃至九里ノ間ニアリ。

強キモノハ概シテ遠ク近キモノハ皆微弱ナリ。即チ震源ハ伊豆

大嶋ノ北西熱海トノ中間ヨリ北東ニ延長シ三浦半島

附近ニ延長セルノ如シ。



0509

危険期、既ニ去リタルハ故ニ今度ノ月、
前報告后、餘震同数左ノ如シ

九月四日	午前六時ヨリ正午迄	五十六回
"	正午ヨリ午後六時迄	六十一回
"	午後六時ヨリ夜半迄	三十二回
九月五日	夜半ヨリ午前六時迄	二十六回



0510

9
c

軍務局

大正十二年九月三日

海軍省軍務局長大角岑生殿

飛行機搜索方針願件

九月二日午前八時當隊状況報告及横須賀鎮守府ト通信連絡為横須賀二向ヶ出發セルナル横廠式水上偵察機凡一〇五號操縦者海軍中尉加藤唯雄作業者海軍三等機關兵曹内海善助

海

藤田

丸

0511

塔架(横須賀)着飯途ニ就キタル俟未
 飯着自セズ昨日及本日午前飛行機ヲ
 以テ極力搜索セシモ消息不明ニ候條此
 上ノ搜索ニ付各方面ニ可然御指示方
 御配慮ニ預リ度
 右依頼ス
 遠テ横須賀鎮守府參謀長ハ本日午後
 飛行機ヨリ報告球ヲ以テ右ト同文通報
 上海方面ノ搜索手配方依頼ニ見込セ
 天候ノ状況ニ依リテ飛行不可能トモ
 候ニ就キ為念海軍省ヨリ右ヲ横須賀ニ通報

0512

セウシ度頼上候

(4)

0513